

## スマホ見ながらポケモン探し

写真は朝日新聞 7 月 31 日朝刊「ポケ GO 人気も懸念も ↑↑」。毎日新聞 7 月 30 日夕刊「松尾貴史のちょっと違和感」が、巻き添え事故に要注意!と警鐘を鳴らしているので抜粋して紹介したい。

スマートフォンの画面を見ながら右往左往するおびたしい人の群れをなんと形容すべきだろうか。ある人は昆虫の大群が目的もなく蠢いているようだというし、ある人は大勢のゾンビたちが迫り来るようだという。住宅街でもオフィス街でも歓楽街でも観光地でも、公園でも学校でも商業施設でも病院でも、数秒観察するだけでわかる。ああ、ポケモンを探しているな、捕まえようとしているな、そして捕まえたな、と。

満員電車の中で誰も会話せず、息苦しい沈黙の集積の中で、「起きている人間」の殆どが小さな画面を覗んでいる光景は、病的ですらある。

それが、往来や公共の場所で歩き始めたのだ。これまでも、「歩きスマホ」と呼ばれる行為はあったけれど、危なっかしい奴がいるなあ、という程度の割合だった。自転車や自動車を操縦中に届いたメールの確認をすることで事故が起きたり、転倒したり、ということもあれど、この度流行り始めたそれは、画面の中の地図が連動して、そこにバーチャルの怪物が現れて、捕獲する作業に集中しなければならなくなる特殊な使い方だ。さらに、その怪物は使用者の都合で出てくるわけではなく、予期せず出現するので、エスカレーターから降りようとするタイミング、電車に乗り込もうと足を踏み出した時、アクセルを踏もうとした刹那、横断歩道を渡っている最中などに、「捕獲」のための動作をする人が多く出てくるだろう。

これは、本人たちだけの問題ではなく、この種の携帯電話の使い方やゲーム自体を全くやらない人がいくら気をつけて日常の活動を行っていても、おばさんのせいで巻き添えを食って大怪我をしたり命を落としたりしかねない。巻き添え要注意! 前東京都知事のような響きだ。

この種のゲームに集中するあまり、注意が疎かになったのだろう、ひたたくり犯にバッグを盗られてしまったり、バイクを運転中にゲームに夢中になって蛇行運転をしているところを捕まったりしているし、このゲームを利用しての強盗に襲われたり、各施設の敷地内に入り込んでしまったりというトラブルが続出だそうだ。

社会の成熟度とテクノロジーの関係があまりにもアンバランスではないか。

(2016 年 8 月 5 日)

